

令和7年度 仙台市農政推進協議会 議事の概要

日時：令和8年1月20日（火）

午後2時00分～午後2時50分

場所：仙台市役所本庁舎 3階 第一応接室

1. 出席者

委員 11名（欠席3名）

事務局 12名

傍聴 0名

2. 概要

1. 開 会

2. あいさつ

《藤本会長（仙台市副市長）》

3. 協 議

仙台市農業施策基本方針の見直しについて 資料1-1～資料1-3、資料2
《事務局説明》

事務局（農林企画課長）

- ・ 資料1-1～資料1-3、資料2により説明
協議決定事項として、下記事項を確認
 - ・ 検討委員会を設置すること
 - ・ 検討委員会の名称を「仙台市農業施策基本方針検討委員会」とすること
 - ・ 検討委員会に農業施策基本方針見直し素案の検討について付託すること

《質疑応答》

なし

藤本会長（仙台市副市長）

- ・ 協議決定事項を原案のとおり決定し、仙台市農業施策基本方針の見直しを進めてよろしいか。
- ⇒全員了承

4. 報 告

(1) 稼げる都市農業の実現に向けた取組みについて

参考資料1

事務局（農林部長）

- ・ 参考資料1により説明

《質疑応答》

藤澤委員（仙台農業協同組合代表理事組合長）

- ・農産物等輸出支援の内容を教えてください。

事務局（農業振興課長）

- ・令和7年度はモデル事業として、フルーツの海外展開を見据えインバウンド向けのフルーツ狩り等を行っている仙台ターミナルビル(株)の自主事業に補助金を交付している。

藤澤委員（仙台農業協同組合代表理事組合長）

- ・輸出をしやすい形に誘導するということか。

事務局（農業振興課長）

- ・輸出には様々なハードルがあるので、検証しながら試行してもらい、今後の農業者の輸出に向けて横展開できるよう、モデル的な事業に支援を行っている。

藤澤委員（仙台農業協同組合代表理事組合長）

- ・組合が合併し、亘理町や山元町産のイチゴも「仙台いちご」として販売しているが、仙台市外のため対象外となるということか。

事務局（農業振興課長）

- ・はじめはそうかもしれないが、仙台市は市内だけではなく、県内や東北地方まで見据えた形で様々な事業を展開しているので、今後検討する内容になると思う。

藤澤委員（仙台農業協同組合代表理事組合長）

- ・農協としても都市型産業として仙台市内でイチゴ栽培を拡大していきたいと考えているので、このように先取りで事業をしてもらえると誘致しやすくなる。今後もよろしく願います。

佐藤委員（仙台市議会議員）

- ・ふるさと納税による事業拡大支援の返礼品登録生産者数2件を具体的に教えてください。

事務局（農業振興課長）

- ・今年度は市内産農産物を使ったキムチとピクルス。昨年度はコメを1件登録している。

内藤委員（仙台市議会議員）

- ・とれたて仙台のインスタグラムの登録者について、若い世代が多くフォローしているのか、上の世代の方もフォローしているのか。

事務局（農業振興課農食ビジネス推進室長）

- ・フォロワーのアカウント情報開示の関係で詳細な年代はわからないが、フェア等開催時

のアンケートでは30代、40代の女性が多かった。応募状況等では60代や70代の回答もあるので、幅広い年代の方に見ていただけると感じている。

恵津委員（みやぎ生活協同組合地域代表理事）

- ・ふるさと納税モニターツアーの内容を教えてください。

事務局（農業振興課農食ビジネス推進室長）

- ・首都圏の一般消費者、情報誌編集者、情報発信事業者が参加し、秋保地区で市内産農産物を用いた夕食会や収穫体験等を実施した。実際に雑誌に記事を掲載してもらい、モニターツアーとして体験型の返礼品にするにあたっての課題整理をしたところ。

⇒以降質疑応答なし

(2) 仙台市ツキノワグマ被害防止対策パッケージについて

参考資料2

事務局（農業振興課長）

- ・**参考資料2**により説明

《質疑応答》

恵津委員（みやぎ生活協同組合地域代表理事）

- ・捕獲したクマ63頭は山に返されたのか、それとも処分されたのか。

事務局（農業振興課長）

- ・一度人間の生活圏に出没したクマは再出没の可能性があるため、63頭はすべて殺処分した実績である。

赤間委員（仙台市農業委員会会長）

- ・非農地とした土地の外輪にも大面積の草が茂った土地があり、クマと人間の生活域の緩衝地帯にしてはどうかという提案がしばしば出てくるが、土地所有者と連絡が取れない、所有者から草刈りの要望があっても受け皿となる組織がないという現状がある。個人として草刈りを請け負いたいという気持ちもあるが、特別職の公務員としての立場もあり難しいと思っている。クマ対策に協力できるような制度の整理を依頼できないか。

事務局（農林企画課長）

- ・令和7年12月補正予算において、耕作放棄地等刈払い支援事業に300万円を措置している。多面的機能支払交付金の農業者団体や町内会等に耕作放棄地の刈払いを依頼し、助成する制度を検討しているところである。

赤間委員（仙台市農業委員会会長）

- ・予算が全市で300万円では、どの地域でも不足してしまうのではないかと。機械等も欲し

いところであり、対応いただけたらよいと思う。

藤澤委員（仙台農業協同組合代表理事組合長）

- ・出てきたクマに対する対策は記載されているが、頭数を減らす対策、例えばハンター養成等は考えられているのか。狩猟者の高齢化が進み、今後人数が減ることを心配している。

事務局（農業振興課長）

- ・猟銃の研修受講に係る経費の助成や、猟友会に若い方が入るように担い手育成の支援を行っている。頭数管理については宮城県の業務であり、環境局から県へ要望を出していると聞いている。

藤澤委員（仙台農業協同組合代表理事組合長）

- ・一般の若い方が狩猟免許を取得した場合、対応時にはどのような形で招集の連絡をとるのか。猟友会が優先的な連絡先になるのか。

事務局（農業振興課長）

- ・狩猟免許取得の費用等支援については、猟友会に入ることを前提として申出を受けており、若手が猟友会に入って担い手育成につながることを目指している。

武田委員（特定非営利活動法人仙台・みやぎ消費者支援ネット代表理事）

- ・クマによる農業被害の実態はどうか。

事務局（農業振興課長）

- ・農業共済組合や区役所から報告された農業被害としては、泉区の果樹園で数十万円の被害が出ている。農業被害はイノシシによるものが多く、農林部でもイノシシ被害対策中心に事業を進めている。

内藤委員（仙台市議会議員）

- ・モンスターウルフの台数と設置時期は。また、購入なのかリースなのか。

事務局（農業振興課長）

- ・3月までに4台の設置を予定している。1年間のリースと購入では金額が大きく変わらないため、購入することとした。

⇒以降質疑応答なし